

情報収集提供業務に関しては、主要な畜産物、野菜、砂糖及びその原料作物並びにでん粉及びその原料作物の生産及び流通に関する情報について、収集、整理及び提供を行っている。令和5年度においては、農畜産物の需給動向の判断や経営の安定に資する情報等の収集及び提供に当たり、持続可能な生産システムの構築に向けた情報など、その的確な実施を図るため、調査テーマの重点化等業務の合理化を進めつつ、国内外の需給等関連情報の収集及び需給に影響を与える要因に関する調査並びにその提供等について実施した。

また、国民消費生活の安定に寄与するよう、農畜産物に関する知識の普及等、消費者の関心の高い情報を積極的に提供した。

1 情報の収集

(1) 国内

価格・需給データ、需給関連の調査分析報告、優良事例及び地域情報等について、機構職員や専門調査員により収集・整理・分析した。

(2) 海外

機構職員等による価格・需給データ、需給関連の調査分析報告及び優良事例等の調査等を基本に、国際会議等への参加による情報収集に加え、海外カウンターパート機関やコンサルタントの活用等により収集・整理・分析した。

2 情報の提供

(1) 定期刊行物による提供

月報「畜産の情報」、「野菜情報」及び「砂糖類・でん粉情報」の発行による提供を行った。

(2) ホームページによる提供

定期刊行物に加えて、「国際情報コーナー」において定期刊行物での情報発信を補完する「海外情報」などについて随時情報提供を行ったほか、年報「畜産」、「国内統計資料」及び「海外統計資料」への掲載による提供を行った。

(3) メールマガジンによる提供

メールマガジンの利用者に対し、各情報誌の発行情報、海外情報、需給関連情報、a l i cセミナーの開催案内などを定期的に配信した。

また、農畜産業に携わる事業者や団体がメールマガジンに事業広告を掲載する機会を提供し、令和5年度は1者の広告主を得て配信した。

(4) 講演依頼による提供

外部からの講演依頼に応じて、国内外における農畜産物の生産、流通、需給動向などに関する情報等について、提供を行った。

3 主要な提供テーマ

(1) 畜産

- ア 畜産・酪農の流通・加工・消費段階における持続的発展（国内）
- ・ コロナ禍における牛肉の消費減に対する取り組みについて

～石垣牛がコロナ禍を乗り越えるために～

- ・伝統的なナチュラルチーズの製法から新しいチーズのかたちを探る
- ・牛肉の脂質酸化リスクに出荷月齢は影響するか

～和牛肉の輸出力強化のための出荷月齢の早期化の関係～

イ 畜産・酪農の持続的な生産経営基盤の維持（国内）

- ・米作を基盤とした持続可能なわが国独自の鶏肉生産への挑戦
- ・大規模酪農経営の持続的な展開
～株式会社竹信牧場を事例に～
- ・未利用資源を活用した資源循環型養豚生産システム
～セブンフーズ株式会社の事例～

ウ 畜産・酪農の生産現場における環境負荷軽減（国内）

- ・畜産分野における温室効果ガス削減に向けた取り組みと取り巻く状況
～研究の推進～
～生産現場での取り組みとそれを取り巻く状況～
- ・メタンガス濃度のモニタリング・調査

エ 畜産・酪農の生産基盤の強化（海外）

- ・高い生産者乳価を支えるイタリアのチーズ生産
- ・米国鶏肉産業の現状と消費者ニーズへの対応について
- ・アフリカ豚熱を経験したベトナムの養豚業の動向
～中小規模の生産者の現状を中心に～

オ 気候変動や国際情勢の変化に対応した持続可能な食料生産システム（海外）

- ・EUにおける昆虫の飼料利用の実態と展望
- ・米国における家畜排せつ物の管理および利活用の現状と課題
- ・米国における肉用牛の放牧をめぐる情勢
～管理放牧への切り換え～

【国内特集号】地域で畜産経営を支える取り組み～コスト高の中で～

- ・農業改良普及センターにおける情報発信の取り組み
～酪農現場での活用および成果～
- ・地域で食品残さのリサイクル
～エコフィードマッチングプラットフォームの構築について～
- ・中山間地域を新たな技術で支える
～スマート放牧による低コスト畜産の取り組み～

【海外特集号】畜産の生産基盤の強化

- ・畜産物の生産コストを価格に反映する仕組みを考える
- ・畜産物の生産基盤の強化
- ・米国における肉用牛生産基盤の動向

～適切な価格形成に向けて～

- ・ウクライナ情勢を踏まえたEU産農畜産物の生産基盤強化に向けた動き
- ・豪州の畜産農家における経営収支実態と所得向上の取り組み
- ・中国における畜産業の生産基盤強化に向けた取り組み

(2) 野菜

ア 加工・業務用野菜の供給体制の強化

- ・調理食品専門メーカーにおける規格外セルリーの利活用
～エム・シーシー食品株式会社と株式会社アグリセールスの連携～
- ・日本の野菜生産者と共に歩んでいく
～株式会社リンガーハットの取り組み～
- ・県内農協組織が一体となった加工・業務向け野菜販売の取り組み
～JA熊本経済連によるキャベツ集出荷・販売の事例～

イ みどりの食料システム戦略の実現に向けた野菜の生産・流通・消費

- ・GAP認証取得支援の取り組みで、持続可能な農業経営を推進
- ・南風原町(はえばるちょう)のかぼちゃ生産
～資材費高騰下での単収向上と減農薬栽培の推進～
- ・EUにおける有機野菜の位置付けと生産・消費拡大に向けた取り組み

ウ スマート農業の推進や物流改善等による野菜生産の拡大及び効率化

- ・北海道の野菜流通におけるモーダルシフトの現状と課題
- ・ブロッコリーの産地づくりと出荷予測システムの導入
～JA香川県の新たな取り組み～
- ・宮城県RTKシステムにより農業の維持・発展を目指す
～高精度測位システムの全県域展開～

【特集号】『みどりの食料システム戦略』の実現に向けた野菜業界の取り組み

- ・「みどりの食料システム戦略」の実現に向けた最新の動向
- ・「みどりの食料システム戦略」の実現に向けたスマート農業の現場
- ・青果物流最前線！物流2024年問題に向けて
- ・給食利用で広がる有機農産物の地域内流通

(3) 砂糖・でん粉

【砂糖・でん粉共通】

ア 持続可能な農業生産

- ・かりゆしウェアのシェアリングサービス
～サトウキビの搾りかす「バガス」を使ったアップサイクルの取り組み～
- ・グアテマラの砂糖産業の動向およびSDGsに関する取り組み
- ・北海道てん菜・でん粉原料用ばれいしょ生産における臨時労働力調達
～派遣労働力を例に～

イ 生産の効率化

- ・サトウキビ生産量拡大に向けた、生産の効率化や生産性向上を図る取り組み
～沖永良部島知名町・福井源乃介氏の事例～
- ・スマート農業化への展望
～スマート農業がわが国の農業を救うためには～
- ・さとうきびスマート農業技術の鹿児島県南西諸島への導入について
～南大東島スマート農業の事例を参考に～

【砂糖】

ア 糖類の利用促進に資する情報、糖類を含む食品の魅力

- ・砂糖とお菓子の関係と和洋菓子のトレンドについて
- ・人工甘味料の使用に関するWHOガイドラインについて考える
- ・甘いものがもたらす心理的影響の検討
～甘いものの摂取傾向を中心に～

【特集号】収益向上のためのさまざまな取り組み

- ・遊休地発生を防ぐ！北海道JAつべつのスマート農業推進と労働力不足対応
- ・センシングドローンとGPSレベラーの活用によるかんしょ産地における基腐病軽減技術
- ・「人が集まる農場」として、農業の豊かさを発信
～北海道遠軽町「えづらファーム」の取り組み～
- ・サトウキビと畜産の複合経営で循環型農業を目指す
～ハカマを粗飼料に、堆肥ペレットを畑に～
- ・サトウキビ+αの複合経営による経営の安定化
～沖縄県伊是名村の若手生産者の取り組み～

4 広報活動

(1) 消費者代表との意見交換会

中期計画において、「消費者等への情報の提供については、国民消費生活の安定に寄与するとともに機構の業務運営に対する国民の理解を深める観点から、消費者等の関心の高い農畜産物や機構の業務に関連した情報を積極的に分かりやすい形で発信するため、消費者等との意見交換会等を通じた双方向・同時的な情報や意見の交換を行うことにより、農畜産物や機構業務に関する消費者等の理解の促進を図る」とされていることを踏まえ、以下のとおり消費者代表との意見交換会を実施した。

開催日	分野	内容等
令和5年 11月21日 (火)	野菜	さといもの選果場の視察や圃場での収穫作業の実施に加え、視察先であるJAいるま野から、管内概況やさといもの生産状況及び生産地としての取組事例等が紹介された。さらに機構とJAいるま野、消費者代表による双方向の意見交換会を実施し、野菜価格安定制度の重要性等について説明するなど、農畜産物や機構業務に関する消費者への理解促進を図った。

(2) 広報誌の発行、「消費の道しるべ」への記事掲載及びセミナーの開催

機構の各業務や業務を通じて得られた様々な情報について、広報活動をはじめとした様々な手段・方法で広く発信し、国民の皆様にご覧いただけるよう、広報誌「alic」を発行するとともに、alicセミナーを開催した。

また、一般財団法人消費科学センターが発行する「消費の道しるべ」に、消費者の関心が高いと考えられる事項についての記事を掲載した。

ア 広報誌「alic」の発行

発行月	主な掲載内容
令和5年5月	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長就任のごあいさつ ・「第18回食育推進全国大会 in とやま」に出展します ・ポーランドの牛肉産業の現状と対日輸出動向 <p style="text-align: right;">ほか</p>
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・「ばれいしょ」の品種を知ってもっと楽しもう ・キッズコーナー ☆ベジ探を自主学習に活用してみよう☆～品目編～ ・オーストラリアの温室効果ガス削減に向けた取り組み <p style="text-align: right;">ほか</p>
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・世界農業遺産（GIAHS）に認定された阿蘇の草原の維持と持続的農業 ・キッズコーナー ☆ベジ探を自主学習に活用してみよう☆～産地編～ ・alic だより 最近の facebook から <p style="text-align: right;">ほか</p>
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・爽やかで薫り高いセルリー（セロリ）で夏を乗り切ろう ・片栗粉の由来とその特性 ・地域や実需者に愛される持続可能性に配慮した国産鶏普及の取組 <p style="text-align: right;">ほか</p>
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての人が活躍できるユニバーサル農業を ・「宮崎牛」の地産地消の取り組み ・動画「野菜が届くまで」シリーズを公開しています <p style="text-align: right;">ほか</p>
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進む種子島のさとうきび生産を支える生産法人「株式会社銭亀」の取り組み ・米国における持続可能な酪農・肉用牛生産に向けた取り組み ・私たちが安全な生卵を食べられる理由 <p style="text-align: right;">ほか</p>
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・開発から20年「やわらか食」の進展 ・最近のSNSから～公式 Instagram アカウントを開設しました～ ・砂糖の出前講座を開催しました <p style="text-align: right;">ほか</p>
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・こんなところにも！ 国産野菜 ・でん粉の動画を公開しました「知られざるでん粉のヒミツ」 ・フランス農業・食料主権省欧州・国際局長一行と意見交換 <p style="text-align: right;">ほか</p>
令和6年1月	<ul style="list-style-type: none"> ・匠の技術で牛肉を消費者に～兵庫県牛肉マイスター制度について～ ・令和5年度さとうきび・甘庶糖関係検討会を開催 ・「第62回農林水産祭 実りのフェスティバル」に出展しました <p style="text-align: right;">ほか</p>
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者代表の方々と の意見交換会を開催 ・加工でん粉ってなに？ ～食品に使う目的と用途～ ・英国農業園芸開発委員会（AHDB）が来日～ a l i c と AHDB の人材交流プログラム～ <p style="text-align: right;">ほか</p>

3月	<ul style="list-style-type: none"> ・農業女子プロジェクト10周年！ つなぐ次世代に ・本当においしい乳製品は牛の健康づくりから～ (有)ダイワファームのチーズ工房を訪ねて～ ・新・野菜ブック～ 野菜の魅力を品目ごとに紹介～ <p style="text-align: right;">ほか</p>
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・エコフィールド ～ おいしい資源の循環～ ・キッズコーナー ☆ベジ探を自主学習に活用してみよう☆東西で比べてみたら？ ・「ファーマーズ&キッズフェスタ2024」に出展しました <p style="text-align: right;">ほか</p>

イ alic セミナーの開催 (Web 会議等による開催)

実施日	テーマ
令和5年6月20日	地域や実需者に愛される持続可能性に配慮した国産鶏普及の取組 (独) 家畜改良センター 岡崎牧場 次長 米本 正弘 氏 兵庫牧場 業務課長 山本 力也 氏
令和5年7月19日 ～8月18日	米国における持続可能な酪農・肉用牛生産に向けた取り組み (独) 日本貿易振興機構 ニューヨーク事務所 岡田 卓也 氏
令和5年11月14日 ～12月13日	EUにおける昆虫の飼料利用の実態と展望 (独) 日本貿易振興機構 ブリュッセル事務所 平石 康久 氏
令和6年3月1日 ～3月29日	豪州における近年の飼料穀物需給動向と見通し (独) 日本貿易振興機構 シドニー事務所 赤松 大暢 氏

ウ 「消費の道しるべ」への掲載

掲載月	掲載内容
令和5年8月	お砂糖の動画を配信しています (特産調整部)
9月	「野菜が届くまで」動画を公開しました (野菜業務部)
10月	a l i c 設立20周年を迎えて (総務部)
11月	匠の技術で牛肉を消費者に～兵庫県牛肉マイスター制度について～ (畜産振興部)
12月	安定的なチーズ生産を行うために～ 国産チーズ生産奨励対策への取組～ (酪農乳業部)
令和6年1月	「野菜が届くまで」の動画を公開しています (野菜業務部)

(3) SNSを通じた情報の提供

機構の業務活動について広く消費者等の理解を得るとともに、機構の認知度を向上させるツールとして、SNS(フェイスブック、インスタグラム及びYouTube<alic channel>)による農畜産業に関するイベント開催の周知及び報告や農畜産業に関する豆知識等の情報発信を行った。

(令和5年度新規発信実績)

- ・フェイスブック : 110本
- ・インスタグラム : 63本
- ・YouTube (alic channel) : 30本

(4) ホームページバナー広告の掲載

農畜産業及びその関連産業の発展に資するため、これらの業種に携わる事業者又はその構成する団体がホームページにバナー広告を掲載する機会を提供し、令和5年度は5者(全者通年)の広告主を得た。